



楽々亭通信

第21号
令和4年5月1日号

発行:NPO法人没イチの会・京都

4月の楽々亭を 開催いたしました



■「鸞」のこころ

本願寺派布教使

安堂芳雅

親鸞聖人のお名前は、インドの天親菩薩の「親」と、中国の曇鸞大師の「鸞」をいただかれたものですが、この「鸞」はとても難しい漢字です。

大学の入試問題で、「浄土真宗を開いた僧侶の名前は？」の答えに、「新卯」や「親乱」の解答があったと聞きました。

漢字で「シンラン」と書く時は、この「鸞」の字がポイントです。

何しろ、糸・言・糸・鳥の四つを組み合わせた、総画数三十の物々しい漢字ですから、「書いてみ

て」と言われて、さらさらとすぐに書ける人は少ないのではないのでしょうか。

楽々亭でも、「親鸞聖人」の「鸞」の字が話題にのぼったことがあり、中国に古くから伝わる伝説の「鳥の名前」だとわかりました。

その「鸞」について、以前、こんなお話を聞きました。

鸞は鳳凰に似た、七色に光り輝く大変美しい鳥ですが、そのヒナは親とは似ても似つかず真っ黒なのです。

ですから、親鳥がいくら餌を与えようとしても、「違う、お母さんじゃあない！」と餌を食べません。それどころか、真っ黒な体のヒナは、美しく光り輝く

親鳥を見た途端、化け物だと思つて逃げてしまうのです。

そこで、安心して餌を食べてもらうために親鳥が考えたのは、「子供と同じ姿になること」でした。

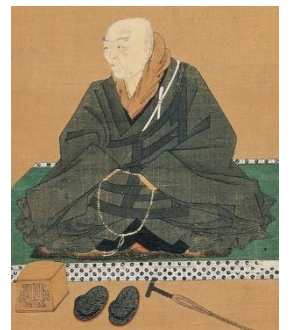
真っ黒の泥沼に行き、光り輝くその体に泥をかぶつて、体を真っ黒にしたのです。するとヒナは、「お母さんが来てくれた！」と、餌をもらうようになりました。それからというものの、鸞の親はいつも体を真っ黒にして、わが子を育てていったということなのです。

鸞のヒナは姿かたちが全く異なるがゆえに、親を親とわかりません。そのヒナのように、迷いのうちにある私の目には阿弥陀さまのお姿はわかりません。

そのわからないことを、見抜いてくださった阿弥陀さまが、私にわかる姿をもつてあらわれて下さっています。それが、「南無阿弥陀仏」のお念仏です。

「あなたをすくう、仏がここにいます」と、私に伝えるために言葉のお姿「南無阿弥陀仏」となつて、今、ここ、私の上に、いたり届いてくださっているのです。

「鸞の親」・・・親鸞聖人はお名前からも、阿弥陀さまのお慈悲のはたらきを教えてくださっているようですね。



楽々亭に参加してみて

私が仏教に触れたのは高校時代下宿していた京都のお寺で、毎月一回開かれる仏教青年会の集まりに、小学生時代からの友達に誘われて参加したのが初めです。

私のその当時の仏教に対する認識は、仏教Ⅱお寺Ⅱ坊さんⅡ葬式でした。皆さんはいかがですか？ お釈迦さんは葬式をしたのでしょうか？ いえ、僧侶が葬式を行うようになったのは中国の儒教の影響だそうで平安時代には行われていたようです。大きく寺院が関わったのは、(日本仏教が葬式仏教へと向かう大きな転機は、江戸幕府が定めた檀家制度である。)と記されています。古い歴史があるのですね。

ですから本来の仏教(インド仏教)では葬式は行われていなかったようです。僧侶というのはお釈迦様の説かれた教えを民衆に広める役目が本来の姿で、葬式は誰もする人がいなかったのが僧侶がするようになったの

かも知れませんね。与謝野晶子が与謝野鉄幹に送った有名な歌に「柔肌の熱き血汐に触れもみで、さびしからずや道を説く君」鉄幹は道を説く人なのでですね。私が仏教青年会に出席した時もお坊さんは島根県から説法の為京都に来た人でした。ですからお坊さんは本来はお釈迦さまの教えを大衆に説いて回るのが仕事で、葬式は付帯的な仕事のはずですが、今では檀家を月命日に周ってお布施をもらってそれで生計をたて、それが主な仕事になっている人が多いですね。私の従兄弟が浄土真宗のお寺で住職をしていて、いつも私に「僕は画家で坊主ではないよ」と言っていました。確かに彼は日展に入選したこともある洋画家ですが、絵を描くついでに檀家を回っていたような人で私はいつも彼のことを生臭坊主と言っていました。皆さんはお坊さんとは檀家を周りお布施をもらうそうした仕事をする人と思っ

ってはいませんか？
楽々亭の安堂芳雅先生はそうした人ではありません。仏教の

宣教師として、とても造詣が深く私達に優しく本来の仏教とは？を教えて下さっています。今最大のベストセラーと言われている、歎異抄を皆んなで安堂芳雅先生の解説で読んでいますが、この本は奥が深くて目から鱗がいつも落ちる講義ですが、私にとっては今までの仏教の認識が覆させられる本です。歎異抄については、また機会があれば私の所見をご披露いたしますが、人間はなんで生きていくのか、どの様に死んで行くのかいつもこの会に参加して考えさせられています。皆さんもぜひ一度参加してみてください。

籠谷 弘



楽々亭の写真は3月のものです。

楽々亭第20回 5月の予定

5月16日(月)

西京区役所洛西支所会議室

午前10時~12時

4月に開催した場所です。

表玄関口から入って下さ

楽々亭通信

発行元：NPO法人 没イチの会・京都

住所：京都市西京区大原野東境谷町一丁目1番地4-701

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい思いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。